

浜頓別町の歴史

先 史

浜頓別町には、旧石器時代の石刃核がポン仁達内遺跡で発見され、また、山軽台地遺跡からは、細石刃核と細石刃が出土し、今から **12,000** 年以上前からヒトの足跡が認められます。

以後、縄文、続縄文、擦文の各時代を経てアイヌ時代の有史に入る。

有 史

〔年次〕

〔記

事〕

- 正保年間 「ツウヘチエソ」と正保御国絵図に記される。
- 寛文 10 年 (1670) 「つんへつ村」と初めて頓別の地名が記録される (津軽一統志)。
- 元禄 13 年 (1700) 松前藩が幕府に呈上した元禄御国絵図に「つうへち」で図示される (元禄御国絵図)。
- 文化 4 年 (1807) トンベツにアイヌの家 12 軒、男女 67 人 (アイヌの長シリメキシユエ) と戸口について最初の記録あり (西蝦夷日記)。
斜内山道開削 (享和元年の説もあり)。
- 弘化 4 年 (1846) 松浦武四郎トンベツ川を舟で渡りシヨナイ (斜内) に泊まる (再航蝦夷日記)。
- 安政 3 年 (1856) 松浦武四郎ふたたび通る。トンベツ、シヨナイについて具体的に記録、絵図あり (武四郎廻浦日記)。
- 明治 2 年 (1869) 10 月 21 日朝ブラキストン氏枝幸を出発、斜内に 2 泊 (熱のため休息) 23 日朝、頓別を通過、夕方猿拂着宿泊 (ブラキストン著「蝦夷の中の日本」)。
- 明治 4 年 判官松本十郎北見国各郡を巡視トンベツ、アイヌの家 2 戸あり川守をしている (北見州経験誌) と書く。
- 明治 5 年 (1872) 枝幸郡戸口 36 戸、人口 153 人 (男 85 人、女 68 人)。
- 明治 7 年 ライマン氏 9 月 22 日枝幸出発シヨセフの沢より馬で斜内山道を越え斜内に一泊。
- 明治 8 年 松本判官最後の北見国巡回。
- 明治 11 年 (1878) 枝幸郡に枝幸、頓別、歌登、礼文の 4 ヶ村が設けられた。斜内にアイヌの家 6 戸。
- 明治 17 年 斜内において和人 (姓不詳) 1 人漁業を営む。
- 明治 21 年 (1888) 大橋良次斜内で初めて鱧網を試みる。
- 明治 22 年 佐藤子之助、頓別川渡船場管理人となる。
- 明治 24 年 枝幸村に 4 ヶ村戸長役場を設置。
- 明治 26 年 (1893) 頓別駅通所創設、取扱人土佐久三郎 (道庁告示明治 28 年)。
- 明治 27 年 斜内に松本忠太郎の漁場 1 ヶ所開設 (佐藤長五郎本村和人定置漁場に定住の始めとす)。
- 明治 28 年 渡船場管理人佐藤子之助、頓別駅通所取扱人を命ぜられ旅人の便を図る。これより次第に定住する者が増える。
また、山軽駅通所新設 (初代取扱人成田徳蔵) 頓別川口に駅舎新設 (道庁)。
- 明治 29 年 斜内に寺子屋式の児童教育所が新設 (私設)。頓別村 17 戸、89 人。
- 明治 30 年 (1897) 斜内山道開削。
- 明治 31 年 頓別川の支流ウソタンナイ上流に豊富なる砂金の産出あり、一時は東洋のクロンダイクとまで内外に宣伝され、一説によると採取人はペイチャン川 (中頓別町) と合せ約 1 万 6 千人を数えた。
- 明治 33 年 (1900) 頓別原野 39 線まで植民地区画設定になり、農業に志す者漸次入植する。

- ウソタンナイ砂金区（ナイ川）より 205 匁（768.75 g）の日本最大の金塊発掘。
板垣退助牧場経営の目的で土地の払下げをうける。（現栗沢付近）。
- 明治 37 年 頓別原野 19 線（現下頓別市街）に高藤嘉平氏移住。
- 明治 38 年 全村定住者 53 戸、263 人。斜内簡易教育所開設（斜内小学校の前身）。
- 明治 41 年（1908） 斜内教育所第 1 教授所開設（頓別小学校の前身）。
- 明治 42 年 鉄道の敷設陳情、戸数 232 戸、1,091 人。菅野榮助農場（154 番地）払下げをうける。
2 級町村制施行により頓別、歌登、礼文、枝幸が枝幸村に併合される。
- 明治 43 年 鉄道速成期成会同盟結成し、大字頓別村より中村卯太郎、及川市太郎、相沢亀吉、北又次郎、
佐藤孫蔵、橋本直吉、松永富雄、高藤嘉平などが参加する。戸数 410 戸、1,577 人。
斜内教育所第 3 教授所開設（下頓別小学校の前身）。斜内教育所第 4 教授所開設（宇曾丹小
学校の前身）。
- 明治 44 年 頓別郵便局開局。
- 明治 45 年 頓別原野 22 線（現下頓別）に駅通開設近藤勝之助官命により取扱人受ける。
- 大正元年（1912） 枝幸水産組合ウソタンナイ支流ヌレイ川にさけ・ますふ化場創設（能力 さけ 400 万粒、ま
す 100 万粒）。
第 1 教授所が頓別尋常小学校と改称して独立。
- 大正 3 年 道庁令森林防火組合設置規則による火防組合、消防組合組織、木造取引きさかんとなり木材
の道外移出高 146 千石余、価格 161 千円余。
- 大正 4 年 漁獲高 にしん 1,340 石 さけ 210 石 ます 100 石 雑魚 3,300 石 ほたて貝
60,000 斤あり。木材、農水産物取引巨額に上り商船などの積取船 96 隻（71 千 t）。三井物
産株式会社頓別木挽工場操業開始。頓別で金井貝灰工場操業。頓別村農会設立。商業組合（任
意団体）結成。
- 大正 5 年（1916） 頓別沿岸に高潮あり、家屋、商品流失、市街の大半が被害を受ける。（被害額 6 万円余り）。
豊寒別教育所開設（豊寒別小学校の前身）。
枝幸村より分村、2 級町村制施行、頓別に役場設置（1,120 戸 4,700 人）。
- 大正 6 年 学校令により教育所から尋常小学校に改称（下頓別、宇曾丹、斜内、豊寒別）。
- 大正 7 年 音威子府、浜頓別駅間鉄道の開通により浜頓別駅営業開始。浜頓別特別教授所開設。
西尾英蔵下頓別に木材工場創設。
私設の仁達内特別教授場開設（のちの仁達内小学校の前身）。
- 大正 8 年（1919） 山火事、飛火して浜頓別市街 312 戸、木材 7 万石焼失。
道道音威子府浜頓別線完成、河合農場開設（戸出農場の前身）。
- 大正 9 年 下頓別小学校宇津内特別教授場開設（のちの宇津内小学校の前身）。
下頓別郵便局開局。
頓別水電株式会社（社長中村卯太郎）宇曾丹川にて水力発電所建設。浜頓別、下頓別、中頓
別市街に送電する。
第 1 回国勢調査。浜頓別郵便局開局。頓別村愛国婦人会結成。山軽特別教授場開設（昭和
11 年閉鎖。昭和 24 年浜頓別小学校山軽分校として再開校）。
- 大正 10 年（1921） 中頓別町が分村。岩橋源之助宇曾丹にて水田試作、良好な成績をあげる。
斜内沖にてホタテ貝曳出漁中漁船 12 隻遭難、12 人死亡、28 人救助、8 人行方不明の重大事
あり。
役場庁舎旧市街（現頓別）より新市街（現浜頓別 4 町内）に移庁。

	浜頓別尋常高等小学校開校。
大正 11 年	宗谷線（旧天北線）稚内まで開通する。頓別処女会設立。 浜頓別尋常小学校大正特別教授場開設（のちの清和小学校）。
大正 13 年	道庁補助事業で、乳牝牛が導入される。下頓別尋常小学校が下頓別尋常高等小学校となる。
大正 15 年	開村 10 周年記念式典挙行。
昭和 2 年（1927）	有限責任旭信用販売購買利用組合発足（現農業協同組合の前身）。
昭和 5 年	宗谷線を北見線と改称。 北海道酪農連合会頓別分工場（乳製品）設置。戸出農場で初めてトラクター導入（ドイツ製 25PS）。
昭和 7 年	頓別駅通所廃止（30 年 10 ヶ月で閉鎖）。
昭和 8 年	興浜北線起工。仁達内駅通所開設。宇津内炭鉱操業開始（目標産量 1 万 t）。 無限責任頓別漁業協同組合設立。カニ缶詰工場設立操業開始。
昭和 9 年	浜頓別尋常高等小学校安別教授場開設（のちの開明小学校）。
昭和 11 年（1936）	興浜北線開通（工事費 966 千円）。同 19 年撤去、同 20 年再開通。
昭和 12 年	日中戦争始まる。
昭和 16 年	村内の各小学校を国民学校と改称。太平洋戦争始まる。
昭和 19 年	日本通運(株)浜頓別支店が開設。
昭和 20 年（1945）	太平洋戦争終結。
昭和 22 年	佐々木熊吉公選初代村長に就任。浜頓別、下頓別両中学校開校。 村内の各国民学校を村立の小学校と改称する。
昭和 24 年	下頓別小学校上茂宇津内分校開校。北海道金山(株)ウソタンナイ砂金の機械掘り開始（昭和 27 年世界一の移動選金機導入）。
昭和 25 年	道立稚内高等学校浜頓別分校開校。
昭和 26 年（1951）	佐々木熊吉第 2 代町長に就任。頓別村を浜頓別町と改め町制施行、浜頓別町章の制定。 頓別漁港第 1 種漁港の指定を受け整備始まる。町立浜頓別高等学校設立認可。
昭和 27 年	道立農業試験場宗谷支場発足（昭和 39 年より天北農業試験場）。斜内前浜春にしんの群来、海面乳白色となる。
昭和 28 年	第 1 回家畜共進会開催（旧雪印前庭）。宗谷家畜保健衛生所開所（現旭ヶ丘）。
昭和 30 年（1955）	寺林五郎吉第 3 代町長に就任。坂下堯道議会議員当選（第 1 期）。 乳牛増産 5 ヶ年計画樹立（目標 2,500 頭）。
昭和 32 年	東天北集約酪農地域指定。浜頓別高校道立移管。上水道施設（豊寒別）完成。浜頓別国民健康保険病院運営開始。
昭和 33 年	浜頓別消防会館新築。（現商工会館横） 浜頓別市街大火（35 戸全半焼）。クッチャロ湖畔竪穴遺跡発掘調査（北海道大学、大場教授）。
昭和 34 年	寺林五郎吉第 4 代町長に就任（第 2 期）。坂下堯道議会議員当選（第 2 期）。 財政再建準用団体適用。
昭和 35 年（1960）	浜頓別商工会設立。富丘小学校開校。
昭和 36 年	近藤信吉第 5 代町長に就任。台風 9・10 号で農作物被害あり。北見線を天北線と改称。 稚内土木現業所頓別事業所開設。
昭和 37 年	浜頓別観光協会設立。神威岬灯台設置。知駒岳に TV 中継アンテナ設置。 公営住宅工事費訴訟事件町が敗訴。

- 昭和 38 年 坂下堯道議会議員当選（第 3 期）。浜頓別営林署開設。稚内開発建設部出張所開設。
ポニタチナイ新営農村型モデル地区指定。電報電話局開局。
沿岸漁業構造改善事業地域指定（宗谷管内一円）。
浜頓別専門店会設立。第 1 回クッチャロ湖水まつり開催。
- 昭和 39 年 町営と畜場開場。乳牛 2,000 頭突破。農業構造改善事業地域指定。
- 昭和 40 年（1965） 近藤信吉第 6 代町長に就任（第 2 期）。豊牛スキー場新設。帆かけスキーがクッチャロ湖の名物となる。
- 昭和 41 年 魚菜市场運営開始。浜頓別・豊富間横断道路完成。浜頓別農協と浜頓別開拓農協統合調印。
浜頓別クッチャロ湖畔竪穴群が北海道史跡に指定。浜頓別中学校新校舎へ移転。
- 昭和 42 年 浜頓別町農協スーパー新築開設（大通り 2 丁目）。
- 昭和 43 年（1968） 開基 90 周年記念式典挙行。浜頓別音頭の作成。クッチャロ湖、ベニヤ原生花園、斜内山道が北オホーツク道立自然公園に指定（43.5.15 道告示第 965 号）。
宗谷家畜保健衛生所移転改築（緑ヶ丘）。
- 昭和 44 年 坂下堯第 7 代町長に就任。財政再建準用団体完了。北オホーツク畜産センター運営開始。
天北線興浜北線上の跨線橋完成（道道、のち国道 275 号）。
- 昭和 45 年（1970） 町議会議員（一行 12 名）訪ソ視察。頓別漁業協同組合改築落成。
緊急開拓制度打ち切りとなり一般農政に移管となる。
- 昭和 46 年 過疎地域指定。国営頓別地区農用地開発事業着手。南宗谷衛生施設組合発足。
緑ヶ丘保育所開所。仁達内小学校廃校（3 月 31 日）
- 昭和 47 年 浜頓別町土地開発公社設立。第 1 期町づくり計画策定。山村振興地域指定（47.2.3 総理府告示第 5 号）。清和小学校廃校（3 月 31 日）
浜頓別の街に交通信号機第 1 号設置。学校給食開始。ホタテ稚貝放流開始。
- 昭和 48 年 坂下堯第 8 代町長に就任（第 2 期）。南宗谷消防組合発足。頓別漁港第 2 種に昇格。第 5 次漁港整備計画起工式。浜頓別幼稚園開園。環境庁鳥類観測 1 級ステーション開設。観光公社「北オホーツクランド」設立。クッチャロ湖畔国民休養地に指定される。第 1 回クッチャロ湖氷原まつり開催。宇津内小学校廃校（3 月 31 日）。北オホーツク荘開業（10 月）。
下頓別の「ハルニレ」が、道の記念保護樹木に指定。町自然保護協会、白鳥の保護開始。
- 昭和 49 年 斜内地区にテレビ共同受信施設完成。
浜頓別の「カシワ林」が道の学術自然保護林、浄覚寺「竜頭の松」が道の記念保護樹木に指定。
- 昭和 50 年（1975） 興浜北線から蒸気機関車が姿を消す。栄和地区から注口土器（続縄文時代）出土。町立図書館、郷土資料館開館。
- 昭和 51 年 公共下水道着工。第 2 期山村振興地域指定。
漁組ホタテ加工場完成。浜頓別町工業団地事業開始（浜頓別、山軽、頓別地区）。
- 昭和 52 年 坂下堯第 9 代町長に就任（第 3 期）。浜頓別町国民健康保険病院新築落成。
全町電話自動化完了。浜頓別住宅団地事業開始。（計画 104 戸 66,000 ㎡）。
- 昭和 53 年 酪農研修センター完成。浜頓別上水道拡張施設完成。
- 昭和 54 年 浜頓別保育所開設。特別豪雪地帯に指定（54.4.3 総理府告示第 14 号）。
浜頓別商工会館新築落成。過疎経過措置団体。
- 昭和 55 年（1980） 石田孝第 10 代町長に就任。浜頓別小学校校舎新築落成。富丘、開明小学校廃校。（3 月 31 日）


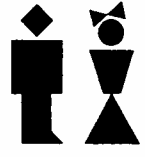













- 昭和 56 年 漁組かん水蓄養施設被災。雪印乳業㈱頓別工場閉鎖。坂下堯参議選立候補 408,241 票獲得。坂下堯道議会議員当選（第 4 期）。第 2 期町づくり計画樹立。国営浜頓別地区農用地開発事業着手。
- 昭和 57 年 国設浜頓別クッチャロ湖鳥獣保護区指定。
水産庁さけますふ化場頓別事業所改築（収容能力 1,000 万尾）。
主要道道音威子府浜頓別線国道に昇格。町民天文台完成。
北オホーツク荘に特殊装置の風車設置。ごみ焼却施設完成。
北見統計情報事務所浜頓別出張所新庁舎落成。
浜頓別高校生物部クッチャロ湖畔でショウジョウバエの新種発見。
- 昭和 58 年 南宗谷衛生施設組合浜頓別地区ごみ処理場運営開始。都市計画区域決定
クッチャロ湖鳥獣保護区に指定（58.3.28 環境庁告示第 25 号）。浜頓別中学校屋体完成。
- 昭和 59 年 石田孝第 11 代町長に就任（第 2 期）。特別養護老人ホーム「清風苑」運営開始。北海道農協乳業㈱宗谷工場製造開始（現よつ葉乳業㈱）。
- 昭和 60 年（1985） 国鉄興浜北線廃止。道立天北農業試験場改築。稚内土木現業所歌登出張所頓別事業所改築。浜頓別消防団第 3 分団（頓別）詰所落成。
- 昭和 61 年 頓別地区国営農用地開発事業、安別地区国営明渠排水事業完成祝賀会（受益面積 2,832ha）。
鬼河原さけますふ化場開設（500 万尾）
町花（エゾノリュウキンカ）町木（アカエゾマツ）町鳥（コハクチョウ）の制定。
- 昭和 62 年 町行政改革大綱策定（3 ヶ年）。頓別漁港外港修築工事完成（第 7 次漁港整備計画完了）。
杉田孝 第 12 代町長に就任。農業集落排水事業下頓別地区着工。
ウソタンナイ砂金採掘公園ゴールドハウスオープン。道立浜頓別高等学校改築完成。
- 昭和 63 年 稚内開発建設部浜頓別道路総合事業所改築。浜頓別消防団第 2 分団（下頓別）詰所落成。
旭川地方法務局浜頓別出張所が同局枝幸出張所に統合。
- 平成元年（1989） J R 天北線廃止。頓別小学校校舎新築落成。クッチャロ湖ラムサール条約登録湿地指定。
第 3 期町づくり計画樹立。クッチャロ湖さわやかトイレ完成。
- 平成 2 年（1990） 一般廃棄物処分場供用開始。公共下水道（浜頓別地区）供用開始。
斜内小学校屋体落成。下頓別中学校校舎落成。
- 平成 3 年（1991） 市川昇第 13 代町長に就任。バスターミナルオープン。下頓別中学校屋体落成。
斜内トンネル着工。公衆浴場新築。過疎地域指定。（3.4.1 総理府告示第 9 号）。
ウソタンナイ砂金遺跡が浜頓別町文化財に指定。
浜頓別町畜産センター肥育施設完成（4 棟）。
- 平成 4 年（1992） 浜頓別町開基（明治 11 年）決定。北海道重点対策湖沼（クッチャロ湖）に指定。
下頓別地区農業集落排水処理施設完成、供用開始。
第 1 回全日本砂金掘大会開催。多目的アリーナ落成。白鳥公園完成。
浜頓別町畜産センター肥育施設完成（4 棟）。病院看護婦宿舎完成。
- 平成 5 年（1993） 消防庁舎落成。浜頓別中学校校舎落成。サイクリングロード供用開始（浜頓別区間）。
はまとんワイン試作。デイ・サービスセンター運営開始。
頓別中央地区農地防災事業着工。病院外壁大改修。
- 平成 6 年（1994） サイクリングロード全面開通（浜頓別～猿払村）。
宇曾丹小学校体育館落成。町民憲章制定。
山軽台地遺跡出土遺物「細石刃核」「細石刃」が浜頓別町有形文化財に指定。

- ボン仁達内遺跡出土遺物「石刃核」が浜頓別町有形文化財に指定。
- 国道 275 号大通り歩道・照明灯改修（平成 7 年継続）。
- 第 1 回町民植樹祭。花いっぱい運動開始。
- 平成 7 年（1995）市川昇第 14 代町長に就任（第 2 期）。浜頓別町史完成。水鳥観察館開館。
- 公共下水道（頓別地区）供用開始。国道 275 号浜頓別道路着工。
- 温泉掘削成功（掘削 1,073m、温度 47.5 度、湯量 150ℓ/分）。
- 国営農地開発事業浜頓別地区完成（安別・共和・仁達内・ボン仁達内）。西尾木材(株)下頓別製材工場閉鎖。北海道北オホーツクの大自然で学ぶ会設立。山村留学第 1 号受入。
- 平成 8 年（1996）はまとんべつ温泉「ウイング」（サイクリングターミナル）オープン。
- 浜頓別町畜産センター糞尿処理施設（ハザカプラント）完成。
- 豊寒別小学校改築落成。漁船保全施設（上架施設）完成。
- 宗谷地区農業共済組合中部支所新体制開始。農山村振興住宅建設。
- 平成 9 年（1997）浜頓別町パークゴルフ場オープン。下頓別パークゴルフ場完成。
- 国道 275 号浜頓別道路完成（跨線橋撤去）。道道豊富浜頓別線区域変更着工。
- 斜内トンネル貫通。女性消防団結成（8 名）。
- 南環状線一部開通。温泉給湯車導入。
- 平成 10 年（1998）斜内小学校校舎落成。宇曾丹小学校校舎落成。郷土資料館オープン。
- 保健福祉総合センター・在宅介護支援センターオープン。
- 稚内保健所支所開所（仮事務所）。
- 企業立地促進条例施行。適用第 1 号小松舗道(株)移設。
- 下頓別定住促進宅地募集開始（7 区画）。
- 営農用水道事業着手。簡易水道事業着手。
- 北オホーツク荘民営オープン。統合保育所建設。
- 老人保健施設着工。仁達内コミュニティセンター建設。
- 平成 11 年（1999）市川昇第 15 代町長に就任（第 3 期）。
- 役場庁舎建設競技設計。第 4 次まちづくり計画スタート。
- 下頓別定住促進宅地住宅第 1 号鴨田二夫氏（移住）。
- 開明コミュニティセンター建設。アメニティ公園一部供用開始。
- 浜頓別交通安全条例制定。稚内保健所支所新築落成。
- 浜頓別町ゲートボール場オープン。老人保健施設「ふれあいの里」オープン。
- 北オホーツクトンネル開通。
- 平成 12 年（2000）浜頓別町役場庁舎着工
- 下頓別定住促進宅地第 2 次募集開始（5 区画）。
- 浜頓別高等学校創立 50 周年。下頓別小学校開校 90 周年。
- 平成 13 年（2001）浜頓別町役場庁舎落成。町制施行 50 周年・開村 85 周年記念事業。
- 第 5 回全日本砂金掘り大会開催。
- 浜頓別町高齢者等グループホームオープン。水鳥観察館施設増築。
- 情報公開条例制定。
- 市民風力発電所・浜頓別 1 号基建設。（愛称：「はまかぜちゃん」）
- 民間風力発電所 3 基建設。
- 「コモチカナヘビ」が浜頓別町文化財に指定。

浜頓別の礎を築き、数々の功績を残された故「管野榮助氏」が名誉町民第1号となる。(胸像建立)。

- 平成14年(2002) 廣瀬忠雄第16代町長に就任。世界砂金掘り浜頓別大会開催。
字名地番改正施行。
- 平成15年(2003) 南宗谷クリーンセンター落成。ADSL供用開始。
- 平成16年(2004) 頓別コミュニティセンター落成。
浜頓別町、中頓別町、猿払村の3町村で構成する、天北三町村合併協議会設立。(同年11月解散)
- 平成17年(2005) 民間風力発電所1基建設。斜内小学校開校100周年。
北オホーツクえさし・はまもんべつ外国人研修生受け入れ特区認定。
- 平成18年(2006) 廣瀬忠雄第17代町長に就任(第2期)。浜頓別町土地開発公社解散。
- 平成19年(2007) アメニティ公園完成。新頓別ふ化場落成。
クッチャロ湖が環境省自然再生事業の対象に選定。
- 平成20年(2008) 浜頓別町学校創立100周年。頓別保育所閉所。
クッチャロ湖白鳥公園内に足湯整備。クッチャロ湖でタンチョウの繁殖確認。
東宗谷地区国営農地再編整備事業地の調査着手。
浜頓別町・中頓別町「命をつなぐ街道」国道275号早期整備促進期成会設立。

町民のくらし (平成20年)

家 族	婚 姻	出 生	死 亡	転 入
 1世帯に2.2人	 26.1日に1組	 11.4日に1人	 8.5日に1人	 1.8日に1人
転 出	町 税	町 の 予 算	人 口 密 度	高 齢 者
 1.3日に1人	 町民1人当り(平成19年) 107,458円	 町民1人当り(平成19年) 1,142,880円	 1km ² に10.5人	 3.8人に1人(26.4%)
有 権 者	多目的アリーナ	図 書 館	水 道	ご む み
 1.2人に1人	 利用者1日に97.5人	 利用者1日に16.5人	 町民1人当り1日平均478ℓ	 1日平均3.6t(可燃) 1日平均0.4t(不燃)